



## Sustainable Society Research(SSR) 2<sup>nd</sup> Year High School Class



## 2020/06/23 SSR（高校2年生）－授業－

### 課題図書/クラスを知ろう

本年度より本校が文部科学省の WWL(World Wide Learning) コンソーシアム構築支援事業の拠点校となり、プログラムのテーマをこれまでに SGH で取り組んできた環境問題から発展させ、環境に配慮した理想の街の探求をテーマに「街づくり」としました。引き続き「グローバル人材育成」を目標とし、新しいテーマに取り組んでいきます。

そのため、この講座の名称は Sustainable Society Research (SSR) となりました。担当教員は坂下淳一教諭と佐藤友亮教諭です。新型ウィルス拡大の影響で大幅に状況が変わったものの、オンラインで以下の課題図書が提示され、生徒達はレポート制作の課題に取り組みました。

#### 【課題図書】

- 『エコライフ 日本とドイツどう違う』高松平蔵、高松アンドレア著（化学同人）
- 『エネルギーと私たちの社会 デンマークに学ぶ成熟社会』ヨアン S.ノルゴー他著（新評論）
- 『サステイナブル・スイス 未来志向のエネルギー、建築、交通』滝川薫著（学芸出版社）
- 『環境先進国ドイツの今 緑とトラムの街カールスルーエ』松田雅央著（学芸出版社）
- 『徹底紹介「環境首都」フライブルク』資源リサイクル推進協議会編集（中央法規出版）

今後は、課題図書について発表をし、クラス全体で 5 冊全ての内容を共有し知識を深めます。また、1年生で取り組んだ問題解決の手法をさらに踏み込んで学び、自分たちで実際に発信、提案することも目指しています。そして3月に予定している海外研修を踏まえ、事前学習を兼ねてこの講座の先輩たちが作成した環境先進国のリサーチブックの改訂にも取り組んでいきます。

この講座の学びの課程ではグループワークが多くなります。そのためには相手を知り、打ち解けることが必要です！



坂下淳一教諭 旅行が大好きを超えた達人！

全都道府県も制覇、思い出深い初海外旅行グアムから海外も公私含めて 25ヶ国 80都市ほどを巡りました。先生撮影の旅先の写真からは、環境や生活の違いを楽しむ好奇心旺盛な先生の人柄が伺えます。フライトレコーダーをチェックしたり、日帰りで長野や東京にドライブしたり、好きな番組は深夜特急と、今後も様々な楽しいお話が飛び出しそうです。



佐藤友亮教諭 特技は地図を頭に記憶できること！  
街がテーマと知り、日本史専門の先生らしくなぜ日本の街が現在のように形成されたのかその歴史に興味を持ちました。そしてお勧めが、多くの国を旅した歴史作家司馬遼太郎の『日本とは何かということ』、またやはり旅好きでもありよく観た懐かしの旅番組は『水曜どうでしょう』で8割は面白くないのに2割がかなり面白いということ、すごく気になってしまいます。



この講座の19人の生徒達は、16もの違った国、地域で育った経緯があることがわかりました。まだ少し硬い表情の生徒達でしたが、今後少しずつ打ち解けてグループワークではそれぞれの経験や体験から様々な意見が交わされることを期待しています。

2020/06/30 SSR（高校2年生）－授業－

### 課題図書についての発表と相互評価

同じ課題図書を選んだ生徒達でグループを作り、発表のためのレジюмеを作成しました。今日は、実際に発表し評価用紙を使った相互評価にも取り組みました。目的は、それぞれが精読した課題図書の内容の全体共有にあります。生徒達はレジюмеを使った発表にまだ慣れない部分があり、発表を評価し合い、また教員よりアドバイスを受けることで、発表の工夫について多くの気付きがありました。

まとめると以下のような点です。

- ・レジюмеと発表内容に相互性があるか
- ・あくまで本の内容説明であるため自分の意見を述べる際にははっきり区別する
- ・キーワードなどを有効的に使い情報量は多くかつ時間内に無理なく伝える工夫をする

グループは7グループ、各10分ずつの発表と質疑応答でした。どの課題図書も著者が実際に現地で取材し多角的な視点から主にドイツの環境政策やその背景や効果をまとめたものですが、いずれも「環境先進国に学ぶということはそのままを真似することではなく、その地域の特性を活かした独自の取り組みとそれにより個々の生活を豊かにすること」が多く共通している認識だったようです。問題解決において、重要なポイントになりそうです。



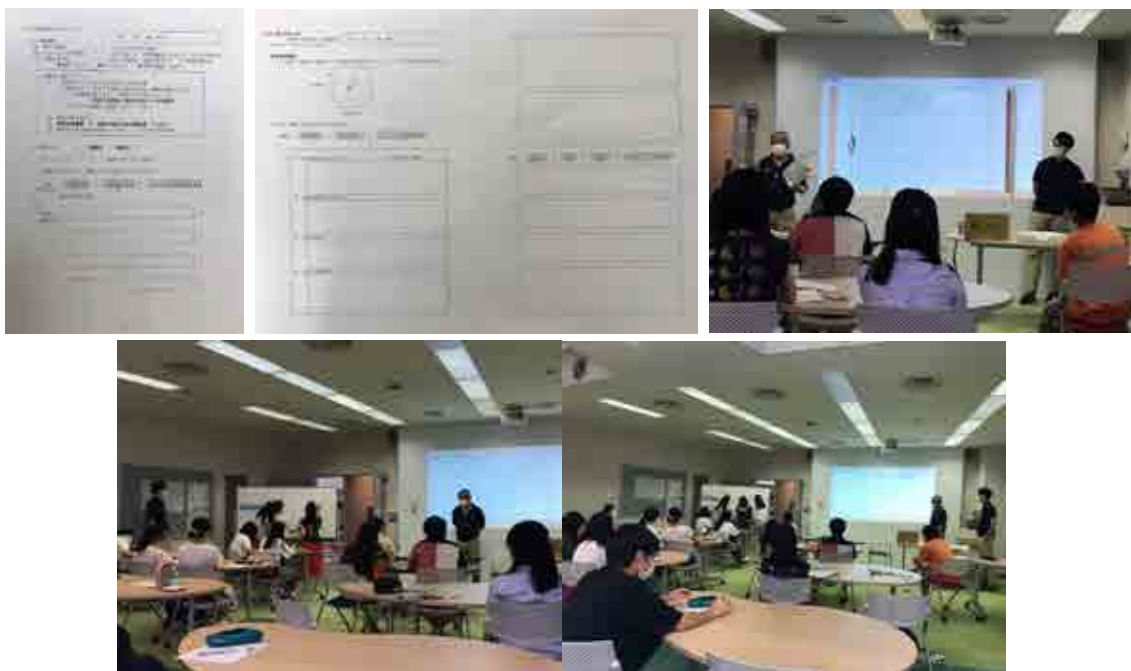
## 2020/07/07 SSR（高校2年生）－授業－

### 問題解決方法のステップ

高校1年生のGUS講座での最終課題として「学校のゴミ問題」についてグループで論じ、最終的に1つの解決案が選ばれました。学校の飲料自動販売機についての提案でした。このSSR講座の1つの目標としてその解決策をさらに具体的に詰め、実際に提案できるものになりたいと考えています。そのために、発展としてさらに論理的に問題解決策を導く方法を「東京の通勤ラッシュの問題解決」をテーマに、プリントを使いながら順序立てて考察してみます。

例えば、「通勤ラッシュの解決→リモートワークにして通勤をやめればいい！」は解決案としては安易すぎます。これは社会が緊急事態宣言によって実行せざるを得ず一時的に問題解決されましたが、これでは論理的に問題を解決したとはいえません。ここでは、あらゆる問題に直面した際の解決案を論理的に導く方法として、問題の原因を探り、分析し、解決案をカテゴリーごとに分けて比較検討を重ね説得力を持たせる過程が重要と考えています。

まず問題を探り、分析するためのフレームワーク（現状分析）に取り組みました。東京の通勤ラッシュの問題を需要側（利用者）と供給側（鉄道会社）に分けて考え、それぞれの提案の比較検討から **impact** と **feasibility** の双方ともが高いものをピックアップしてみます。生徒達からは積極的に意見が出ていました。1人1人の発想を大切にするためにまず個人で取り組みます。



## 2020/07/14 SSR—授業—（高校2年生）

### 解決案まで導く- ボトルネック

前回まで、東京都から依頼されたという仮定で「通勤ラッシュの問題解決」について、問題の前提を確認、そして現状分析（フレームワーク）に取り組んできました。フレームとして大きく供給側の問題、需要側の問題があり、さらに今日はそこから、問題の原因（ボトルネック）を整理し、それぞれのボトルネックに対する解決法を検証して自分なりの解決案を見出します。小グループでの意見交換の時間も持ち、最後には解決案の評価をしました。

#### ●生徒達のフレームワークより

##### 【需要側（利用者）の問題から】

- A 通勤需要→社屋を郊外へ移転、社屋の近くに住む、社屋に住む、在宅勤務の場合の検証
- B 電車選択率→通勤に他の交通手段を利用する場合（所要時間・正確さ・費用）の検証
- C ラッシュ時間帯選択率→フレックス勤務制度の利用、オフピーク時間帯の乗車割引利用

##### 【供給側（鉄道会社）の問題から】

- D 路線数→増やせるか？現状（路面電車の土地の確保、既存の地下鉄の機密度）の検証
- E 本数→現状（ピーク時間帯の実際のダイヤ）とピーク前後の時間帯の増便の検証
- F 車両数→ホーム延長・増設した場合の検証
- G 車両当たりの定員数→2階建車両、ピーク時の折りたたみ座席車両、座席の工夫の検証

どの問題に着眼するか、いくつかの解決策を長期、短期、また優先順位を付けながら各自プリントにまとめました。順序立てて解決案を導く今回の手法を試すことで、手を尽くした、取りこぼしが無いという安心感を実感し、今後の取り組みの参考にして欲しいと思います。



## 2020/07/21 SSR—授業—（高校2年生）

### 確認テストと2学期に向けて

1学期最後の講座、1時間目は、ドイツの環境政策を中心とした課題図書の共通認識について確認テストを行いました。これまでも、1年生の講座から引き続きよく耳にし、目にした環境政策に関わる用語（地域熱供給、レギオカルテ、デュアルシステム等々）の説明が主な問いです。



2時間目は、2学期の取り組みに向けた夏休みの課題について教員より提案がありました。2学期の取り組みとして、1年生の講座において学校のゴミ問題解決プレゼンテーションで優勝した案を、より具体的にまとめ、実際に動き出してみることがあります。2つ目は、講座の先輩がまとめたドイツを中心とした環境先進国の環境政策についてまとめたリサーチブックの改訂を進めることです。

#### 【夏休みの課題】

①学校のゴミ問題の解決案「自販機のペットボトル種類を縮小し、マイボトルへリフィル可能な粉末飲料の販売へ」の趣旨を理解し、実際に提案・実行に動き出すために検討し計画を立ててみましょう。この案の目的は、学校の容器廃棄物（ペットボトルや缶）を減らすための、自動販売機の見直しでした。

②リサーチブック「ドイツ流環境理想図（リソース）」の改訂は現在の高3の講座でも進めています。その過程をデータで確認し全体像を把握しておきましょう。

学校の自動販売機を見直すという案について、前年度提案されたパワーポイントを見直し、話し合いを進めていたところ、この講座の生徒達は日常的に現在の自動販売機自体をあまり利用していないことがわかりました。この解決策の提案が有効かという戸惑いが一瞬ありましたが、状況を理解した上でさらに発展させた案の検討の必要性に気付きました。リサーチブックの取り組みは、2年生の最後に予定されている欧州への海外研修の事前学習も兼ねています。新型ウィルスの影響により実施は未定ではありますが、準備を進めていきたいと考えています。これらの課題に取り組みながら、これまで以上に周りの環境問題に注目し、興味を深める夏休みを過ごして欲しいと願っています。

## 2020/09/08 SSR—授業—（高校2年生）

### 夏休みの課題「学校のゴミ問題」解決策を具体的に考察し自分たちの案をまとめる

夏休みの課題は昨年度の GUS BASIC での「学校のゴミ問題」解決案 1 位のプレゼンから、あくまで主旨を変えず、問題点を整理、改善し、自分の改善案としてまとめてみることでした。そして 2 学期最初の本講座では、比較的近い案を提示したメンバーでグループを構成し、グループディスカッションを経て、調べ、考察し、1 つの提案としてまとめました。

—いくつかのポイント—

- ★解決案 1 位となった提案のポイントを理解し、問題点を克服できるような改善案を導くためには、きちんと整理してカテゴリー分けをした後に論理的な説明が必要
- ★解決案 1 位の提案の主旨は、プラスチックゴミの削減とゴミの質を変えること
- ★できれば解決のための全く新しい発想を盛り込んでみる
- ★改善案をまとめた後は、グループでのプレゼンに向けレジメと発表原稿を提出すること  
その際、予想される質問への準備もする（教員 2 人からの手強い指摘も予測してみよう！）

そして本学期は、平行して欧州研修旅行の事前学習を兼ねた生徒たちによるリサーチブックの改訂も進めます。現在も初版の改訂に取り組んでいる高 3(SSD)講座のデータに目を通し、まず目次の改善点を提案します。変更する部分はわかりやすい解説とともにまとめて提出します。このリサーチブックの改訂は、改訂版を実際に発刊することになる大きなプロジェクトとなります。

—ディスカッションの様子—

グループは 5 チームに分かれ、各チームとも真剣に、また全員が積極的に発言し意見交換をしながら調べる作業も進めていました。次回の講座でプレゼン発表を行います。





## 2020/09/15 SSR—授業—（高校2年生）

### グループによるプレゼンテーション「学校のゴミ問題」解決案

本日は、各チームでまとめてきた「学校のゴミ問題」の解決案について、それぞれプレゼンテーションを行いました。また聴講する際は、配布された評価シートに示された項目ごとにプレゼンテーションの評価を行います。評価を受けるだけでなく、的確な評価ができることは今後のより良いプレゼンテーションのために重要なスキルだと考えています。

#### 【評価のポイント】

検討・提案内容について

- 【1】主旨から外れていないか
- 【2】原案の改善ポイントを確認し、評価できる点と問題点の検討をしたか
- 【3】問題点を改善する提案を具体的に言い、理論的に正しく、説得力があるか
- 【4】改善を進めるにあたってトータルな提案ができたか
- 【5】想定される質問や指摘に対する、対応例を準備したか

理論や手法について

- 【6】理論の展開ははっきりしているか
- 【7】理論は事実やデータに基づいているか
- 【8】アンケートを実施した場合その方法は正しいか、参照したものは信頼できるか

発表について

- 【9】レジュメは理解しやすいか
- 【10】発表は理解しやすいか

チーム1：ペットボトル飲料自販機を3台から1台に。購買での粉飲料とタンブラーの販売、またマイボトルの持参推奨によってもペットボトルのゴミ削減

チーム2：卒業記念品を入学時のタンブラーを配布に置き換え、自販機の完全撤去とタンブラー対応ドリンクサーバーの新設により、紙コップ、ペットボトルゴミ双方を削減

チーム3：自販機の完全撤去と、それに代わる水と世界のお茶（週替り）の提供によりペットボトルゴミ削減。環境配慮を目的としながら健康維持、また国際高校らしい文化の学びを実現

チーム4：自販機の完全撤去と、それに代わるウォーターサーバーの増設、食堂でのお湯の提供、リターナブルマグカップの貸出し、また売店での粉飲料の計り売りによるペットボトルゴミ削減だけでなくプラ梱包容器ゴミを出さない

チーム5：自販機の完全撤去と、売店での紙パック飲料の種類と大きさのバラエティーを増やして、またストローは紙製を販売。紙パックは濯ぎ折りたたんだものを資源ゴミとして回収し（今は学校のゴミ箱も撤去中）、プラゴミからのゴミの質の改善

机上の空論ではなく、ようやく具体的に提案に向けた一步を踏み出すことができたプレゼ

ンテーションとなりました。原案は同じでもそれぞれのチームで着眼点の違い、あっと驚く案をと新しい発想をしたチーム、原案の問題点を一つ一つクリアにしようとしたチームなど、それぞれの工夫を感じることができました。多くの質問も飛び出し、問題点も明らかになってきました。これらの5つのチームの発案は、コスト面や、人間の手間、そしてより有効なインセンティブの活用などのさらなる考察を加え、今後の講座で具体的に説得力のある1つの案へと仕上げていく予定です。

(参考) 現在の3台の自販機の利用は、夏3~4千本/1ヶ月、冬3~4百本/1ヶ月とのこと。  
予想以上に多くの利用がある中、自販機の完全な撤去は可能か!?



## 2020/09/29 SSR—授業—（高校2年生）

### リサーチブック改訂—目次

夏休みの課題にあった環境先進国ドイツに関するリサーチブックの通読、そこから本日の講座では目次について各自で再検討をした案を持ち寄り、グループに分かれて話し合うことから取り組みました。目次案の再構築が目的です。リサーチブックは、現在大学2回生になる受講生が高3の時に初版を完成させ、これまでに現在SSD受講中の高3生が内容を見直してきました。今回SSR受講生が欧州海外研修の事前学習としてもその作業を引き続き、改訂版を完成させる計画です。

—本日の取り組みの手順—

- ①大きな章の検討（方針）
- ②章の内容の検討（扱っている内容の種類・深さ・順番）
- ③ドイツの解説の内容の検討（他の事例とのバランスが適切か）
- ④データの更新（確かなもの）

リサーチブック改訂の過程においても、検討、調べる、グループディスカッション、取りまとめ、ドキュメントの作成、そして発表と多くの作業とともに今後も役立つスキルの習得ともなっています。こうして多くの作業と労力を伴いますが、最終的にリサーチブック改訂版が製本されることになると、大きな達成感を得ることにもなり楽しみです。



## 2020/10/13 SSR—授業—（高校2年生）

### リサーチブック改訂—目次案発表

それぞれの班でリサーチブック目次案がまとまり、今日はその内容を発表しました。最終的には、生徒たちによる相互評価を参考に教員が案を取りまとめ、それを元に目次案の改訂は完成ということになります。

#### ●「評価表」を自分で構成する

この講座では、正しく評価することも重要な学びの1つだと考えています。今回は、分析検討するにあたり何に注目して発表を聞くか、各自それぞれの評価表の評価項目を自分で構成してみることにしました。

（項目の例）

- ・変更した部分とその説明が明確か
- ・レジュメの見やすさ
- ・目次に統一感があり全体に見やすいか
- ・発表者の姿勢（伝え方）



#### ●●各班の発表と評価表の記入

各班はそれぞれに工夫を凝らして作成したレジュメを前方のスクリーンに映し出ししながら、自分たちでまとめた目次の改訂案を説明しました。ドイツの環境政策をまとめたリサーチブックであるため、他の国との比較においてのわかりやすさ、より環境政策に特化した内容にするための変更点が多くみられました。

（提案の例）

- ・ドイツ基本情報の縮小
- ・タイトルの統一、章の入れ替え、統合など
- ・重複している内容の削除
- ・写真やグラフの追加
- ・参考文献のまとめ方の変更



#### ●●●教員による総括

様々な提案の中で、ドイツの概要を縮小するという班がいくつかありました。これについては、ドイツの現在の政策や教育といった考え方が、戦争などを含むドイツが辿ってきた歴史に大きく影響を受けていることから、簡単に省くことができるものではないと考えます。同じ方向性の提案も、まったく逆の提案もあり、それぞれの感じ方の違いがあることにも気付きました。もう一度初版ではなぜこの情報が必要だと考えたのか、慎重に考察してみることも大切です。次週は、改訂版目次から、いよいよ内容の改訂作業へと進みます。

## 2020/10/20 SSR—授業—（高校2年生）

### リサーチブック改訂—担当班に分かれて作業開始

ドイツの環境政策をまとめたリサーチブックの改訂は、先週までにおおまかな目次の見直しを終え、今週からはその目次を基に担当班を決め役割分担をし、いよいよ内容の改訂に取り組みます。

1時間目は、先週までの目次の改訂を振り返り、どの部分の改訂に携わりたいかについて考える時間です。目次、そして現在までに編集されている内容を最新のデータで確認しながら各自考えました。最終的に、希望をアンケートで取り、章ごと、そして全体の編集を担当する班のメンバーが決まりました。2時間目は、早速各班に分かれて作業に取りかかりました。取り組みによって毎回新しい班での作業をしますが、生徒たちはいつもすぐに協力し合い順調に話し合いを進めることができています。

#### ●班分け

- 1 基本情報・概要
- 2 廃棄物
- 3 発電 / 全体の編集
- 4 都市
- 5 エネルギー



#### ●●教員からのアドバイス

・エキスパートになろう

それぞれの班は担当箇所（分野）のエキスパートになる心構えで取り組んで下さい。

・わかりやすい内容に

ドイツの環境政策について何も知らない高校生が読んで理解できる内容にすることを常に意識して下さい。単純に理解しにくい箇所がないか改めて確認し見直して下さい。

・データの再検証は慎重に

引用するデータは最新のものか、また信用できるものかをしっかり確認して下さい。

次週までに、各自の作業としては改訂に必要な資料を調べてみる、班としては班の中での役割分担をして下さい。講座で所有している関連書籍については、リストをお知らせして希望者に貸し出しをします。新たに必要な書籍を見つけた場合にはリクエストして下さい。

●SSR 関連書籍リスト (2020年10月現在)

カテゴリー	No.	書籍名	著者	出版社
ドイツ	101	飛躍するドイツの再生可能エネルギー	和田 武	世界思想社
	102	フライブルクのまちづくり	村上敦	学芸出版社
	103	100%再生可能へ！ドイツの市民エネルギー企業	村上敦	学芸出版社
	104	ドイツ環境都市モデルの教訓	竹ヶ原啓介	エネルギーフォーラム
	105	市民がつくった電力会社	田口理穂	大月書店
	106	ここが違う、ドイツの環境政策	今泉みね子	白水社
	107	ドイツを変えた10人の環境パイオニア	今泉みね子	白水社
	108	ドイツ発、環境最新事情	今泉みね子	中央法規出版
	109	フライブルグ環境レポート	今泉みね子	中央法規出版
	110	ドイツに学ぶ 地域からのエネルギー転換	寺西俊一	家の光協会
	111	エコロジーだけが経済を救う	フランツ・アルト	洋泉社
	112	環境先進国ドイツの今	松田雅央	学芸出版社
	113	脱原発を決めたドイツの挑戦	熊谷徹	角川書店
EU	201	100%再生可能へ！欧州の市民エネルギー自立地域	村上敦	学芸出版社
	202	ヨーロッパ環境対策最前線	片野優	白水社
	203	ここが違う、ヨーロッパの交通政策	片野優	白水社
	204	ヨーロッパ環境都市のヒューマンウェア	大橋照枝	学芸出版社
	205	サステイナブルシティ EU の地域・環境戦略	岡部明子	学芸出版社
	206	ヨーロッパ・バイオマス産業レポート	西川 力	築地書館
北欧	301	エネルギーと私たちの社会デンマークに学ぶ成熟社会	飯田哲也	新評論
	302	デンマークの環境に優しい街づくり	福田成美	新評論
	303	クリスチャニア自由の国に生きるデンマークの奇跡	清水香那	WAVE 出版
	304	北欧が教えてくれた「ヒュッゲ」な暮らしの秘密	シグナ・ヨハンセン	日本文芸社
その他	401	キロワットアワー・イズ・マネー	村上敦	いしずえ
	402	環境首都コンテスト地域から日本を変える7つの提案	財団法人ハイライ フ研究所	学芸出版社
	403	ご当地電力はじめました！	高橋真樹	岩波ジュニア新書
	404	地球温暖化は解決できるのか	小西雅子	岩波ジュニア新書

## 2020/10/27-11/24 SSR—授業—（高校2年生）

### リサーチブック改訂

#### 学校のゴミ問題

本日から、ドイツリサーチブック改訂の取り組みと並行して、学校のゴミ問題についても、この2つのグループワークを同時に進めていきます。講座の時間を使っての情報の共有や整理、まとめといったグループワークに、さらに各グループでの役割分担のうえ個人でのリサーチなどの作業が加わり、ハードワークとなりましたが生徒たちはよくこなしています。

#### ●ドイツリサーチブック改訂



各章を担当するグループに分かれて、現在の原稿の問題点や改善点について、多くのアイデアが出され、検討してきました。現在までの成果を元に2学期中におおまかな改訂案をまとめ、冬休みに入ってすぐに各章の完成を目指しています。作業の進んだ原稿は、Google Classroomで共有され、教員がその都度確認しアドバイスをしています。3学期には全体の編集を終えて、その頃には皆の

知識もより深まり、印刷し改訂版として完成できることを楽しみにしています。

#### ●学校のゴミ問題

何をどう変えることで、プラゴミが減るのか、そして取り組みやすさと効果の出やすさのバランスがもっとも高いものは、徹底的な比較検討と話し合いが行われてきました。学校の自販機は本当に必要か。自分たちの案についても、その効果や問題点、具体的な費用などのリサーチも進んでいます。学校のプラゴミを削減する案は、皆が楽しんで取り組むことができるような夢のあるワクワク感も必要です。そして、その取り組みがブームとなり、今後、他の学校や他の機関に広がっていくようなものになればと考えています。そのことを意識して、日頃から社会へのアンテナを広げて取り組んでみてください。





話し合いや、教員とのコミュニケーションが活発な講座です。2 学期最後の講座では、これまで取り上げてきた環境問題に関する知識を問う小テストと、グループワークを通してそれぞれの取り組みについて相互評価を行いました。また、この状況で 3 月に予定していた欧州への研修旅行も残念ながらキャンセルせざるを得ないでしょう。ただし、いま取り組んでいる課題は私たちの緊急の課題として大いに知り、検討する価値があります。これからはモチベーションを失わず、問題解決に向けて皆で考え、知恵を絞りたいと思います。

冬休みは、リサーチブック改訂の各パートから個々にディスカッションに値するテーマについていくつか取り上げて、そしてそれぞれぜひ考えを巡らせてみて下さい。引き続き 3 学期に元気で会いましょう。



2021/01/12 SSR（高校2年生）－授業－

### リサーチブック改訂　－ディスカッショントピック

3学期を迎えました。生徒達はどのようなお正月を過ごしたでしょうか。おせち料理やお正月の遊びに話が及びました。狭い国内であっても、おせち料理は地域によってずいぶん異なります。またおせち料理にはそれぞれ意味がありますが、どれくらい知っているでしょうか。佐藤教諭からは出身である会津のおせち料理の紹介、坂下教諭は小さい頃遊んだコマを披露してくれました。様々な文化を理解し寛容でいる上でも、まず自分達の文化に改めて向き合い、理解しておく必要があることに気付かされました。

生徒達は冬休みの課題として、現在取り組んでいるリサーチブック改訂から、自分達が担当している章を中心として疑問に思った点、また共有したいディスカッショントピックについてまとめました。各自が出した案を持ち寄り、本日の講座ではそれを共有し、グループで検討した上で1つのシートにまとめました。

- 1 グループ全体で各自のディスカッショントピックを全て書き出す
- 2 それぞれの案について、評価し検討する
  - ・既に答えの出ているものではないか
  - ・リサーチブックの内容に組み込むべきか
  - ・同じ高校生が疑問に思い話し合う価値があるか
  - ・読み手にどういった方向で理解して欲しいのか
  - ・単なるQAになっていないか



2021/01/22,26 SSR (高校2年生) -授業-

## 私達の生活とインフラストラクチャー

リサーチブック改訂の取り組みと並行して、作業を始めたのは、学校のゴミ問題の解決と同様に、学校より広い範囲として学校所在地である京田辺市に環境問題に関して何か私達が提案できる解決案探しです。そのために、まず私達の行動と基本的な社会サービス（インフラストラクチャー）との関わりを整理して表（シート）を作成しまとめることにしました。

- 1 日頃の生活に意識を向けて行動と社会サービスの関わり（事実）の羅列をする
- 2 図式かするには「一覧性」を大切に

シートを作成する目的は、自分達の生活と社会サービスの関わりから、環境保護の観点において自分達は何を変えたいのか、自分達は何を変えられるのか、を抽出することです。ここから実際にどのような提案ができるのかを検証したいと考えています。この目的を念頭に置き、作成してみましょう。

2回目の緊急事態宣言が出たことで、教室でのグループワークも今までのようにはし辛くなりました。向かい合って話し合うことを避けるために、コミュニケーションセンターのデバイスを使って話し合うといったことにも挑戦しています。



## インフラストラクチャーシートの評価

生徒達はそれぞれのグループで、私達の行動とインフラストラクチャーや社会サービスの関わりについてシートにまとめました。目的は、京田辺市に環境問題に対して政策提案をする際に、私達高校生にどのようなことができるかを検証するためでした。今日は、各グループのシートを教室のスクリーンで共有し手元の評価用紙に気付いたことを書き込み評価します。評価する項目（どのような点に注目し評価すべきか）も各自考えます。また、教員から時には厳しいアドバイスもあります。今後のこうした作業の際に役立てて欲しいと考えています。

### ●それぞれのシートから

- ・全体像がつかめるものになっているか
- ・1日の行動の流れを追うことが主な目的のシートになっていないか
- ・行動がイベント中心になっていないか  
(季節ならその季節の傾向にも注目すべき)
- ・決まった情報が同じように羅列され無駄な情報に場所を取られていないか
- ・想像の行動パターンになっている場合は、リサーチも必要だったのではないか
- ・一覧性を単に一度に見渡せるものと取り違えて理解していないか
- ・個々の行動パターンを入れると限りなく項目が増えるので気を付けるべき



同じことを表わすシートの作成であっても、表現の仕方は様々でした。大切なことは、何をするためのシートなのか。情報が整理され見やすいものであるか。シートから検討する際に、情報を抽出しやすいものであるか。今後は、このシートから自分達に取り組めるもの、そうでないもの、何に絞って提言するかを抽出し、その理由、またそのために何をリサーチする必要があるか等検証していきます。今日明らかになった改善点を踏まえてシートを見直し、次回までにグループで話し合いを進めます。

## 京田辺市の取り組みを知る

私達の行動とインフラストラクチャーの関わりについて整理してきた生徒達、実際に提案をするうえで、京田辺市が現在 SDGs に関わるどのような取り組みを実際に行っているかを詳しく知る必要があると考えました。

取り組みを調べていくと、京田辺市のホームページに「第四次京田辺市総合計画」として、いくつかの社会潮流や街の課題から、目指すまちの姿を5つの基本構想で示されています。そして「まちづくりプラン」の施策事業として特に今後4年間に取り組む5つと+1の重点プロジェクトについてSDGsと関連付けて解説しています。



京田辺市ホームページより

[https://www.kyotanabe.jp/cmsfiles/contents/0000014/14819/4soukei\\_honpen.pdf](https://www.kyotanabe.jp/cmsfiles/contents/0000014/14819/4soukei_honpen.pdf)

### 【5つ+1のまちづくりプラン重点プロジェクト】

- 1 生み育てる喜びが感じられる子育て支援と人づくり
  - 2 市民協働による安全・安心な地域のまちづくり
  - 3 だれもが安心して暮らし続けられる支え合いづくり
  - 4 まちの利点を生かした産業振興と未来への基盤づくり
  - 5 時代の変化に対応した新たな都市づくり
- +1 開かれた行政、市民と未来を創る市役所

それぞれに成果指標と事業メニューが説明されています。

生徒達は、そこから京田辺市が目指す街作りの方向性と取り組みを知り、改めて自分達はどの部分と関わり、何を提案したいのか再考していました。



## 京田辺市への提案

京田辺市の取り組みと自分達の生活の関わりについて、調べ、データを整理し、取り組みが可能なこと、そして効果が期待できること、それぞれの発想をまとめてきました。今日は自分の提案をまとめ、記述式テストに回答する形で提出しました。

### ●「京田辺市の取り組みについてのリサーチ&アプローチ」記述式テスト

- 【1】（1）あなたが注目した京田辺市の取り組み、事業の内容  
（2）注目した理由
- 【2】（1）あなたが注目した取り組みが解決しようとしている問題およびその問題が孕んでいる困難さ  
（2）具体的な問題の分析  
なぜどう問題になっているのか。ステークホルダー（利害関係者）や周辺状況などを分析する
- 【3】（1）問題に対する解決策の提案、具体的な解決方法  
（2）その解決方法を実施した際に期待できる効果  
（3）解決策を実施するにあたって懸念される事項

### ●ビジネスモデル・キャンパス

SSR 最後の講座の時間は、佐藤教諭より今後の提案にも役立つ情報の整理のやり方として「ビジネスモデル・キャンパス」の紹介がありました。ビジネスモデル・キャンパスとはkey partners(協力者)、key activities(活動)、key resources(資源)、value propositions(価値)、channel(販路)、customer relationships(関係)、customer segment(顧客)、cost structure(コスト)、revenue stream(収益)の9つの項目で、ビジネスモデルをまとめるために使うフレームワークです。構造を図式化し、キャンパスに書き込むことでどのようなビジネスか整理され、論理的、効率的な思考のきっかけになります。多くの企業も利用しています。



生徒達は、このビジネスモデル・キャンパスから、あったらいいなという自販機について、ディスカッションをしました。京田辺産のお茶がリフィルできるもの、センサーで購入者の体温や体調を見極めオススメのドリンクを提示してくれるもの、特産品が気軽に買えるもの、常温で販売する代わりに値引きしてくれるものなど、反論もありましたが、今後に向けて発想が広がりそうなアイデアがたくさん出たところで本年度の講座を終えました。次期は最終学年となるので引き続き学びと発想のより豊かなクラスになればと思います。